

BI-3-iii-02	衛生学 I	第3学年	前期 選択	1.5単位
担当者	山崎 正博			
一般目標 (GIO)	人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、現代社会における疾病とその予防、栄養と健康に関する基本的知識、技能、態度を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<p>【健康と疾病の概念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。 <p>【保健統計】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。 2. 人口統計、傷病統計に関する指標について説明できる 3. 人口動態の変遷について説明できる <p>【疫学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。 2. 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。 3. 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。 4. リスク要因の評価としてオッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる（知識・技能） <p>【疾病の予防とは】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。 2. 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる <p>【感染症とその予防】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。 2. 感染症法における感染症とその分類について説明できる。 3. 代表的な性行為感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。 4. 予防接種の意義と方法について説明できる。 <p>【生活習慣病とその予防】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。 2. 生活習慣病のリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。 3. 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度） <p>【母子保健】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児マスキリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 2. 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 <p>【労働衛生】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な労働災害、職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。 2. 労働衛生管理について説明できる <p>【栄養】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。 2. 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。 3. 食品中の三大栄養素の栄養的価値（栄養価）を説明できる。 4. 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。 5. エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。 6. 日本における栄養摂取の基準について説明できる。 7. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。 8. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。 <p>【食品機能と食品衛生】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。 2. 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（技能） 3. 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。 4. 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 5. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 6. 特別用途食品と保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。 7. 食品衛生に関する法的規制について説明できる。 			
受講心得・準備学習等	保健統計・疫学を学び、少子高齢化対策と疾病予防の重要性について考えながら受講すること。 1年次の生物学IIでの栄養と代謝の内容をよく理解しておくこと。 授業内容について質問することがあるので、その点に留意し受講すること。			
事後学習・復習等	授業で得た基礎的な知識を、身の回りの現実の状況に置き換えて理解する。また、保健統計や感染症・生活習慣病への対策などは毎年のように改正されるデータや法律、感染症の流行や新たな疾病の発生など刻一刻と変化する状況などに対応できるように、常に新しいニュースに興味を持つこと。			
オフィスアワー	平日の13:00～18:00、メールによる質問・相談も、随時受け付ける。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		
回	項目	内容
1	健康とは	健康と疾病の概念、人口統計の意義
2	保健統計（1）	人口動態・人口静態
3	保健統計（2）	出生・死亡・傷病統計の最近の動向
4	疫学（1）	疫学概論、疫学の三要因
5	疫学（2）	疫学の種類、その算出方法と実践
6	疾病の予防	1～3次予防とは、わが国の健康対策
7	感染症の予防（1）	現代の感染症の動向、性感染症とその予防
8	感染症の予防（2）	感染症法
9	感染症の予防（3）	予防接種
10	生活習慣病	各生活習慣病の動向、生活習慣におけるリスク要因、日々の予防法
11	母子保健・労働衛生	母子保健概論、母子感染症、職業病と労働災害、労働衛生の管理
12	栄養学	栄養素の吸収・代謝、代謝に関わる数値、わが国の栄養摂取状況
13	食品衛生	栄養素の変質と保存法、食品由来の有害物質の生成機構
14	食品機能	食品添加物、法規制、特殊機能を持つ食品

成績評価の方法	定期試験と授業内で行う小論文の成績を基に判断し評価する。
成績評価の基準	本試験については、当該試験の成績と授業内小論文の得点を加算し、60%以上を単位認定と判定する。追再試験については、当該試験の成績のみを基に60%以上を単位認定と判定する。
教科書	日本薬学会 編「スタンダード薬学シリーズ II 5 健康と環境」（東京化学同人）
参考書など	井出 速雄、武田 健 編「衛生薬学—新しい時代—」（廣川書店） 一般財団法人厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2016/2017 年」